

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

- (1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法
貯蔵品は、総平均法による原価法によっている。
- (2) 有価証券の評価基準及び評価方法
満期保有目的の債権は、償却原価法(定額法)によっている。
- (3) 固定資産の減価償却の方法
定率法による。
- (4) 消費税等の会計処理
消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	0	1,500,000	0	1,500,000
投資有価証券	1,002,900,000	10,425,000	1,568	1,013,323,432
小計	1,002,900,000	11,925,000	1,568	1,014,823,432
特定資産				
30周年記念事業積立資産	4,000,000	0	4,000,000	0
公益事業積立資産	32,607,939	0	11,160,635	21,447,304
小計	36,607,939	0	15,160,635	21,447,304
合計	1,039,507,939	11,925,000	15,162,203	1,036,270,736

3. 基本財産及び特定資産の財源の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
定期預金	1,500,000	(0)	(1,500,000)	
投資有価証券	1,013,323,432	(1,002,900,000)	(10,423,432)	—
小計	1,014,823,432	1,002,900,000	11,923,432	0
特定資産				
公益事業積立資産	21,447,304	(21,447,304)	(0)	—
小計	21,447,304	(21,447,304)	(0)	—
合計	1,036,270,736	(1,024,347,304)	(11,923,432)	—

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品	468,405	468,402	3
合計	468,405	468,402	3

5. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおりである。

(単位:円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時価	評価損益	備考
ムラヨ-ロッパファイナンス エヌアイ No.48063	200,000,000	192,480,000	△ 7,520,000	100円当り96.24円
ムラヨ-ロッパファイナンス エヌアイ No.42655	200,000,000	177,160,000	△ 22,840,000	100円当り88.58円
ムラヨ-ロッパファイナンス エヌアイ No.42664	100,000,000	87,590,000	△ 12,410,000	100円当り87.59円
シルフリミテッドシリーズ 50409	300,000,000	283,080,000	△ 16,920,000	100円当り94.36円
三菱UFJ証券ホールディングス PRD債	100,000,000	95,478,000	△ 4,522,000	100円当り95.478円
ザ・ゴールドマン・サックス・グルー プ・インク PRD債	100,000,000	84,641,000	△ 15,359,000	100円当り84.641円
第3回ソフトバンクグループ利払繰延・期 限前償還条項付無担保社債	10,423,432	10,425,000	1,568	100円当り104.25円
合計	1,010,423,432	930,854,000	△ 79,569,432	

※ 満期まで保有の場合、元本割れのリスクは発生しない。

6. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

内容	金額
経常収益への振替額	
基本財産受取利息	23,850,950
基本財産受取配当金	2,900,000
合計	26,750,950

7. その他

金融商品の状況

(1) 金融商品に対する取組方針

当法人は、公益目的事業の財源の相当部分を運用益によって賄うため、債券、株式、投資信託により資産運用する。なお、デリバティブ取引は行わない方針である。

(2) 金融商品の内容及びリスク

投資有価証券は、債券、株式、投資信託であり、発行体の信用リスク、市場価格の変動リスクにさらされている。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

① 資産運用規程に基づく取引

金融商品の取引は、当法人の基本財産管理規程に基づき行う。

② 信用リスクの管理

債権については、発行体の状況を定期的に把握し、理事会に報告する。

③ 市場リスクの管理

株式については時価を定期的に把握し、理事会に報告する。

投資信託については、関連する市場の動向を把握し、運用状況を理事会に報告する。